

# シー・イット・ナウ

米国CBS 1952～1955年制作 30～60分×9巻 セット価格¥210,000(税込)

放送ジャーナリズムの草分けであるエドワード・R・マローがホスト役を務める1950年代の人気番組「シー・イット・ナウ」から9本を厳選したドキュメンタリーシリーズ。目玉は米国政府内の共産主義者を暴こうと企てた、ジョゼフ・マッカーシー上院議員の冷酷無比なやり口を暴露したエピソードであろう。オリジナル英語版 白黒作品。

原題：SEE IT NOW 各巻30分 ¥25,200(税込) 第9巻のみ60分 商品番号GL-255

エドワード・R・マロー (Edward Roscos Murrow)

1908年ノースカロライナ州で生まれる。ワシントン州立大学卒業後、1935年CBSに入社。ラジオ放送時代の「こちら(間)ーロンドンです。」で始まる戦況レポートは、彼を一躍有名にした。テレビ放送の時代になっても彼の放送は報道内容もさることながら、そのスタイルも称賛に値するものであった。得意の演技力と豊かな想像力、強い個性、加えて疲れ知らずの強靱な肉体を武器にジャーナリストとしてアメリカ国民の絶賛をあげる。

## <各巻内容>

### 1. ウィリアム・ベントン議員の反論

1952年3月16日放送のこの番組のなかでジョゼフ・マッカーシー上院議員により告発されたウィリアム・ベントン議員の反論などの前半のあと、後半ダグラス・マッカーサー將軍のケンタッキー州での演説を再構成したものなど。／1952年3月23日放送。

### 2. ソビエト連邦の歴史

第二次世界大戦後、中国に共産党政権が誕生した冷戦の時代、冷戦の時代、共産主義について多くのデマゴギーが流布していた。革命からスターリンの死までのソビエト連邦の歴史を追う。／1953年3月8日放送。

### 3. アラブ・イスラエル論争

第一次中東戦争後のアラブ軍イスラエル軍双方の兵士の日常を密着取材。建国(1948年)直後のイスラエルの姿がよくわかる。後半では両国の国際外交の様子を伝える。／1953年12月22日放送。

### 4. リンカーンのバースデー・ウィーク

アイゼンハワーとトルーマンを交え共和党と民主党が集会を開き、リンカーン大統領と彼の死について話し合う。朝鮮半島の米軍兵士、ハーレムに住む女性、ルイジアナ州の小学校の教師と児童も参加。／1954年2月9日放送。

### 5. マッカーシー 4千万人の視聴者は見た

「今夜は、ジョゼフ・マッカーシー上院議員についてのレポートを、本人の言葉と映像を中心にお送りする。」番組冒頭のマローの挨拶。4千万人の目がこの番組を見たこと伝えられる。マローは議員が反論を希望するなら同じ時間を無料で提供すると表明する。／1954年3月9日放送。

### 6. アニー・リー・モス

マッカーシーの上院調査委員会でのアニー・リー・モスの証言。国防総省無線室勤務の黒人女性が共産黨員だとして密告され、審理されることになった。CBSのたった1台のカメラがその模様を収録した。／1954年3月16日放送。



### 7. マッカーシーの反論

3月9日の放送でマローが提案したイコールタイムによるマッカーシー上院議員の反論。マローに対する中傷ともとれる調査報告や「水爆の開発が遅れているのはなぜか？裏切り者はだれだ？」とやや興奮気味に語る。／1954年4月6日放送。

### 8. 共産主義脅威論争

3部構成で、まずパリからアルフレッド・グルエンサー將軍のインタビュー。冷戦時代の対ソ認識がわかる。つぎに、シカゴのレイナード・J・シェヒル司教の主張を聞く。最後に、前週4月6日の番組でのマッカーシー上院議員の発言をマローが批判する。／1954年4月13日放送。

### 9. グランマ・モーゼスとルイ・アームストロング

この頃「シー・イット・ナウ」は、30分枠から1時間枠になり、番組スポンサーも変わっていた。前半が画家グランマ・モーゼスのインタビュー、後半がサッチモことルイ・アームストロング(ジャズミュージシャン)のインタビューと公演ツアーのドキュメント。／1955年12月13日放送。